

最先端研究開発支援ワーキングチーム(第11回)議事概要

- 日時 平成21年8月27日(木) 14:00～16:15
- 場所 中央合同庁舎第4号館4階 共用第4特別会議室
- 出席者
 - 座長 相澤 益男 総合科学技術会議議員
 - 座長代理 本庶 佑 総合科学技術会議議員
 - 構成員 奥村 直樹 総合科学技術会議議員
 - 同 白石 隆 総合科学技術会議議員
 - 同 榊原 定征 総合科学技術会議議員
 - 同 今榮東洋子 総合科学技術会議議員
 - 同 有信 睦弘 株式会社東芝顧問
 - 同 飯塚 哲哉 ザインエレクトロニクス株式会社代表取締役
 - 同 石谷 久 東京大学名誉教授
 - 同 勝木 元也 自然科学研究機構理事、独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長
 - 同 岸 輝雄 独立行政法人物質・材料研究機構顧問
 - 同 柘植 綾夫 芝浦工業大学学長
 - 同 中西 友子 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
 - 同 中村 道治 株式会社日立製作所取締役
 - 同 西尾章治郎 大阪大学理事・副学長
 - 同 西島 和三 持田製薬株式会社医薬開発本部専任主事
 - 同 橋本 和仁 東京大学大学院先端科学技術センター教授
 - 同 松見 芳男 伊藤忠商事株式会社理事・伊藤忠先端技術戦略研究所所長
 - 同 松村 幾敏 新日本石油株式会社代表取締役副社長・執行役員
 - 同 渡邊 浩之 トヨタ自動車株式会社技監

- 議題

- (1) 中心研究者候補及び研究課題候補の決定について
- (2) その他

- 議事

(注) 本会議は個別具体の研究者名や研究課題名に言及した議論がなされたため、傍聴は不可(非公開)とされた。本議事概要についても、それらが特定されない形での公表とする。

- (1) 中心研究者候補及び研究課題候補の決定について

【A構成員】

当落に関わりなく、ヒアリング対象者にはワーキングチームでどのような議論があったかを

伝えることが出来ればいいと思っている。

【B 構成員】

ワーキングチームが支援会議に上げなかった案件については、ワーキングチームに相当の責任があると思われる。ワーキングチームが何を考えていたのかをはっきりさせておくべき。

【C 構成員】

今回の審査は、分野別にこだわらず、あくまで世界における日本としてどうすべきかという視点から判断した。

【D 構成員】

統合化、システム化の技術が新たなイノベーションを生み出すこともある。理解されにくいのが、大変重要。直接的な因果関係ではなく、さまざまな技術を統合して、新しいシステムを作り、新しい価値をつくり出すというイノベーションがあり得る。

(2) その他

【E 構成員】

間接経費は一般の人に納得できるような額に収めるべき。

【F 構成員】

このプログラムは、研究支援体制という仕組みが重要。ただし研究者から見ると、出来ることと出来ないことの区別が分かりにくい。法律か、大学のルールか、予算の慣行か、何がネックになって出来ないことがあるのか研究者には理解しにくい。このプログラムでどういうことが出来るか例を挙げて研究者と支援機関に提示し、検討してもらうのも一案ではないか。

【G 構成員】

応募してきた研究機関と中心研究者が直接接合できる機会を設けるのは重要。中心研究者がやりたいことを研究機関に徹底して要求することが重要である。

支援機関は応募するときに中心研究者の要望をどれだけ具体化できるかを考えて可能性を広げていき、このプログラムの趣旨である研究者にとって良い環境をつくっていくという進め方が大事だと思う。

【H 構成員】

研究のモニターや進捗のチェックは、民間レベル並み、あるいはそれに準ずるような仕組みで実施して欲しい。民間企業は3か月に1回、研究のモニタリングを実施している。今回は予算も大きいのでチェックも十分行うべきだろう。

【I 構成員】

このプログラムは民間企業でできないことをやるのが目的。民間企業で行うのなら、より大

量の資金をつぎ込んで、より結果を重視するという方法もある。研究者に評価疲れさせないためにも、モニタリングは長いスパンでやってもいい。民間企業で感覚で評価をやるのなら、研究者にとってはこの制度は魅力がない。

【J 構成員】

研究支援担当機関が自分たちの義務を果たさないときは、中心研究者はこれを打ち切れるということを公募要領に明示すべき。

(了)